

2006 年 12 月 PRESS RELEASE
山口情報芸術センター(YCAM) presents

サウンド LIVE&シンポジウム/ATAK NIGHT3

「anti fourier/instability」(アンチ フーリエ・インスタビリティ)

2007 年 2 月 17 日 (土) 18:30 開場/19:00 開演

会場：山口情報芸術センター スタジオ B

料金：(スタンディング/税込)

一般 ¥2,500 any 会員/特別割引 ¥2,000

出演：PAN SONIC、GOEM a.k.a Frans de Waard

渋谷慶一郎 [ATAK]、evala [ATAK、port]

エレクトロニカサウンド（電子音響派）を世界的に牽引する存在で、ノイズ音楽に新しい領域を切り開いたフィンランドのミニマル音響デュオ＝PAN SONIC（パン・ソニック）。近年、メンバー各自のソロ活動に加え、サウンドインスタレーションや、坂本龍一、ビョーク、Merzbow とのコラボレーションなど、多岐に注目を浴びている彼らが、ついに YCAM に登場。映像も交えたライブパフォーマンスに期待が高まる。

また、オランダでの音楽製作/批評/レーベル運営などの活動により、ヨーロッパにおけるサウンドアートの発展に深く貢献する GOEM（ゴーム）の中心メンバー、フランス・デ・ワードがゲスト参加。また、今夏 YCAM で発表したサウンドインスタレーション「filmachine」が記憶に新しい ATAK の渋谷慶一郎、evala（江原寛人）がホストアーティストをつとめる、ヨーロッパと日本の精鋭サウンドアーティストによるスペシャルコンサートが決定。

コンサートとあわせて、ミニマル音響、サイン波などの周波数主義のムーヴメント以降のサウンドアートの可能性を討議するシンポジウムを同時開催。アーティストに加えて、非線形物理学の世界的研究者、東京大学助教授の池上高志をゲストに招く。サウンドとアートにおける新たなパラダイムを探る充実のプログラムです。

チケット情報：プレイガイド発売 1 月 6 日 (土) ～

山口市文化振興財団チケットインフォメーション: 083-920-6111 (10:00-19:00 ※火曜休館)

【プレイガイド】[山口市] 山口情報芸術センター/山口市民会館/山口南総合センター

【ローソンチケット】TEL.0570-084-006 (Lコード：62913)

*ウェブ予約あり <http://atak.jp> (ATAK web site)



<関連イベント>

シンポジウム「anti fourier/instability」

2007年2月17日(土) 16:00~17:30

会場：山口情報芸術センター スタジオ B(予定) 入場無料

出演：ミカ・ヴァイニオ [PAN SONIC]、イルポ・ヴァイサネン [PAN SONIC]、
フランス・デ・ワード [GOEM]、渋谷慶一郎 [ATAK]、池上高志 [東京大学助教授]

司会：阿部一直 [YCAM]

<ツアースケジュール>

2/17(sat) @YCAM(コンサート&シンポジウム/司会:阿部一直)

2/20(tue) @京都造形大学studio21

2/22(thu) @uplink (シンポジウム/司会:佐々木敦)

2/23(fri) @UNIT 東京

<アーティストプロフィール>

■パンソニック (PAN SONIC)

1993年にフィンランド出身のミカ・ヴァイニオとイルポ・ヴァイサネンによって結成。PAN SONIC(当初はPANASONIC)は90年代初頭に端を発したテクノ以降の電子音響/エレクトロニックミュージックの新しい扉を開いた先駆者であり、その虚飾を徹底的に削ぎ落としたスタイルがその後のシーンに与えた影響は計り知れない。

現在までに6枚のアルバムを英MUTEレーベルからリリースしているほか、それぞれがソロ名義でTOUCH、mego、raster-notonから発表しており、坂本龍一、ビョーク、カールステン・ニコライ、スーサイドのアラン・ヴェガ、メルツバウらとのコラボレーションや数多くのリミックスワークでも知られている。特にビョークはミカ・ヴァイニオの大ファンであることを公言しており、アルバム「post」のリミックス「テレグラム」への参加が実現している。

また、2004年に発表された4枚組の最新アルバム「Kesto」は2005年のアルスエレクトロニカ・デジタルミュージック部門で名誉賞を受賞。また、サウンドインスタレーションとしてはFrequencies [Hz](フランクフルト・シルン美術ホール)、Migrateurs project(パリ市立近代美術館)、sonic boom(ロンドンハイワードギャラリー)、ミネアポリスウォーカー・アート・センター、シカゴ近代美術館、パリ・カルティエ財団美術館等、数多くの美術館で作品を発表している。ライブパフォーマンスにおいては圧倒的なリズムの強度を誇り、そのテンションの高さは他の追随を許さない。



■ゴーム (GOEM)

オランダ出身のフランス・デ・ワードによるGOEMは当初、ロエル・メルコップ、ピーター・ドゥイメリンクスとの3人によるユニットとしてスタートしている。医療器具によるパルス信号を使用し、極度に機械的でグルーヴを徹底的に排除したミニマルテクノの奇形/進化型とも言うべきスタイルは1997年にnoton/raster musicから発表されたファーストアルバム「STUD STIM」から2001年にアメリカの12kから発表された傑作アルバム「ABRI」に至るまで通底している。

またフランス・デ・ワードはAudio.NL、staalplaat、Korm Plasticsといったヨーロッパにおける重要な電子音響レーベルの設立、運営に深く関わっており、世界中の電子音響作品についての批評、執筆も積極的に実践しサウンドアートの発展に深く貢献している。その活動の軌跡はヨーロッパにおけるエレクトロアコースティック、ノイズ・エクスペリメンタルからサウンドのミニマリズムへという進化を体現しているものでGOEMが活動を開始する1996年以前は1984年からノイズ・



コンクリートプロジェクトである Kapotte Muziek(カポテ・ムジーク)を主宰し、オランダの音楽シーンにおいて常に絶大な影響力を誇っている。2001 年には初来日を果たし川崎市民ミュージアムでインスタレーション作品を発表、2004 年には ATAK からフルアルバム「ATAK005 goem」を発表し大きな話題を呼んだ。

■渋谷慶一郎 (Keiichiro Shibuya)

音楽家。1973年東京生まれ。東京芸術大学作曲科卒業。02年、ATAK設立。音楽レーベルとして国内外の先鋭的な電子音響作品をCDリリースするだけではなく、デザイン、ネットワークテクノロジーなど多様なクリエイターを擁し、活動のプラットフォームとして精力的な活動を展開。同年、森美術館開館記念CDへ参加。03年には作曲家、ピアニストの高橋悠治とのコラボレーションによるCD作品「ATAK002 keiichiro shibuya+yuji takahashi」をリリース。同年、アイスランドからstilluppsteypaを招聘し国内4カ所でコンサートを行う。そして04年、初のソロアルバム「ATAK000 keiichiro shibuya」をリリース。音色とリズムにフォーカスした徹底的に緻密な構成は「電子音楽の歴史のすべてを統べる完璧な作品」と評され評価を決定的なものとした。



最近では作曲家・高橋悠治や複雑系研究者/東京大学助教授・池上高志、メディア・アーティストの藤幡正樹など分野を横断する共同作業を継続的に展開しており、池上高志とは 05 年末に東京オペラシティ内の ICC (インターコミュニケーションセンター) で共同の制作したサウンド・インスタレーション作品の発表と非線形物理学の応用による変化と運動の音楽理論「第三項音楽」の研究発表/コンサートを行い大きな注目を集めた。第三項音楽は継続的なプロジェクトであり 06 年 8 月には YCAM(山口情報芸術センター)で三次元立体音響を駆使した新作サウンドインスタレーション"filmachine"を発表。そのヘッドフォンバージョンである"ATAK010 filmachine phonics"を 07 年 2 月に発表することが決定しており、これは松下電器のパーソナルサラウンドテクノロジーにより史上初となる音像の縦移動を含む三次元立体音響を実現したヘッドフォンのみで聴取可能な CD として大きな話題を呼んでいる。<http://www.atak.jp/>

■evala (江原寛人)

サウンドアーティスト。1975 年京都生まれ。04 年音楽レーベル port 設立。レーベル第 1 弾 CD『port doc.1-5』では、日本の最先端音楽として国内外で高い評価を受ける。また、テレビゲームや CM、ラジオなどの様々なメディアのサウンドデザイナーとして活躍するほか、通常の音楽レーベルのスタンスを超えて SONY との環境音プロジェクトやプロダクトの開発などを手掛ける。Powerbook 上で Max/MSP 等のプログラミング環境を駆使したデジタル・トリートメント・システムにより独創的なサウンドを展開。ドイツの音響系レーベルをはじめ、CD アルバムのリリース、コンピレーションへの参加、「越後妻有アートトリエンナーレ 2003」への参加のほか、近年では、サウンド・インスタレーション「filmachine」(山口情報芸術センター)にサウンドプログラマーとして参加。気鋭サウンドアーティストとして各方面から大きな注目を集めている。<http://www.evala.org/>



■池上高志 (Takashi Ikegami)

1989 年東京大学大学院理学系研究科物理学修了。理学博士。現在東京大学助教授。「コンピュータシミュレーションをもとにした生命システムの理解=複雑系」を研究テーマとし、ダイナミクスからみた生命理論の構築を目指す。博士号取得後、カオスの生態系における意義についての新理論を金子邦彦氏と共に提唱。人工生命の研究も開始。90~98 年自己複製や計算理論、ゲーム理論の研究、98 年以降に運動論的な知覚、認知のモデル、進化の研究を展開。その成果は『複雑系の進化的シナリオ』(朝倉書店)として刊行。また生命進化における情報の扱われ方を計算論的視点から問題化し、DNA とそれを読む酵素の共進化の視点から「チューリングマシンが互いに互いのテープを読みあって相互に新しいマシンを生成するネットワーク」の理論的モデルを橋本敬氏と構築、その進化可能性のモデル化にも成功した。人工生命の国際会議に主に参加。国際ジャーナル(BioSystems, ArtificialLife, Interaction Studies)の編集も勤めている。近年では、サウンド・インスタレーション「filmachine」(山口情報芸術センター)にアーティストとして参加している。<http://sacral.c.u-tokyo.ac.jp/>



<概要>

■サウンド LIVE/ATAK NIGHT

「anti fourier/instability」(アンチ フーリエ・インスタビリティ)

2007 年 2 月 17 日 (土) 18:30 開場/19:00 開演

会場：山口情報芸術センター スタジオ B

料金：一般 ¥2,500 any 会員/特別割引 ¥2,000 (スタンディング/税込)

出演：PAN SONIC、GOEM a.k.a Frans de Waard、渋谷慶一郎 [ATAK]、
evala [ATAK,port]

主催：渋谷慶一郎 共催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会 企画制作：ATAK

助成：芸術文化振興基金 (ライブ)、スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団、財団法人
朝日新聞文化財団 (シンポジウム)

キュレータ：阿部一直 [YCAM]

<1 月 6 日(土)よりチケット発売開始>

山口市文化振興財団チケットインフォメーション: 083-920-6111 (10:00-19:00※火曜休館)

ローソンチケット: 0570-084-006 Lコード: 62913

※託児サービス：

本公演では託児を行います。2 月 10 日(土)までに、山口市文化振興財団チケットインフォメーション
(TEL083-920-6111)までご予約ください。

[対象]6 ヶ月以上 [託児時間]開演 30 分前から終演 30 分後まで

[料金]お子様 1 人につき 500 円、2 人目以降は 1 人につき 300 円

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

■山口宇部空港から

・乗合タクシーで YCAM まで 約 1 時間(1500 円)

※前日 18:00 までに予約が必要 大隅タクシー0120-31-0860

・空港連絡バスで JR 新山口駅まで 30 分(870 円)

■JR 新山口駅から

・JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分/タクシー5 分

・JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分/バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5 分

・防長バス 25 分、中園町下車

■自動車利用

・山陽自動車道で防府東 IC から 30 分・九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター (広報担当：小滝)

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2212

E-MAIL: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

〒753-0075 山口市中園町 7-7